

生産者情報コーナー

組合員の皆さんの実践例を載せ、参考にさせていただくコーナーです。今回は、43号にひきつづき、あさつゆに鉢花などを出荷している委託会員の手塚さんの栽培記録の中からラベンダーをご紹介します。

◎売れた理由

さわやかな甘い香りがある。夏に咲く草原の花をイメージさせる。品名の響きが良い。

◎栽培管理

・今年伸びた枝が硬くなる9月下旬頃に5cm位にカットする。下葉を1/2取り除く。柔らかい新芽の部分は、蒸散性が強いのでカットする。育苗箱に鹿沼土を入れ、素早く挿す。(しおれやすい)

1箱200本位挿せる。1ヶ月ほど半日陰に置き、乾燥させないようにする。水をやりすぎるとカビや苔が出るので注意！！

・四月上旬頃まで5℃以上のハウス内に置き、8cm位伸びてきたら3寸ポットに仮植する。5月に入ると気温の上昇とともに急成長し花も付いてくる。

20cmになったら、4.5寸鉢に定植する。7月には30cmになり花付きもよくなるので出荷できる。残った鉢は、根詰まりしてくるので、8月頃に8寸鉢に植え替える。9月には大株となり人気商品となる。

・用土は、赤玉土(小粒)2、赤玉土(中粒)1、砂2、ピートモス3、腐葉土1、パーライト0.5、くん炭0.5、石灰0.05、中日本有機入化成30号(10-10-10)0.05、オムロン粒剤少々(アブラムシ防除)

・薬剤防除は、アブラムシ、アオムシなどがつきやすいので、アクタラ顆粒水和剤、スミチオン乳剤を散布している。



野菜の作業

種まき	定植 (植付け)	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホウレンソウ</li> <li>・コマツナ</li> <li>・チンゲンサイ</li> <li>・ダイコン</li> <li>・カブ</li> <li>・スイートコーン</li> <li>・ニンジン</li> <li>・シロウリ</li> <li>・セルリー</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スイカ</li> <li>・ナス</li> <li>・サツマイモ</li> <li>・オクラ</li> <li>・ゴーヤ</li> <li>・アスパラ</li> <li>・ニラ 等</li> </ul>	<p><b>【カボチャの仕立て】</b></p> <p>親づると勢いのよい子づるを2本残して伸ばし、その他のわき芽は摘除する。親づるは7~10節に、子づるは5~7節に雌花が付き、その後3~5節ごとに雌花が咲く。草勢が極端に弱い場合を除き、全て交配させる。側枝の整理は、親づる、子づるとも、2番果が着果するまでの間の側枝はすべて取り除く。その後の側枝は放任してもよい。3本の主枝は20節くらいのところで芯をとめる。空いているハウスのパイプなどに絡ませて立ち栽培をしても面白い。</p>
	<p><b>収穫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タマネギ</li> <li>・ニンニク</li> <li>・シュンギク</li> <li>・キュウリ</li> <li>・ニラ</li> <li>・サトウ</li> <li>・ラッキョウ</li> <li>など</li> </ul>	

品 目	栽培のポイント
 <p>スイスチャード (品種：アイデアル)</p>	<p>葉の軸が赤、白、黄色、中間色にも分かれる西洋ふだん草。(アカザ科) 葉類が不足する夏にも収穫でき、ビタミンA、ミネラルが豊富で風味がある。酸性土に非常に弱いので、タネまきの2週間ほど前に10㎡当たり苦土石灰1~2kgを施す。タネまきの1週間ほど前に完熟堆肥20kgと有機配合肥料600g位を施す。条間20~30cmのスジまき、あるいはバラまきし、発芽後込んだところを間引いて、本葉が2~3枚の頃に株間を15~20cmとする。タネを一晚流水に漬けてまくと発芽がそろふ。発芽後は水をやや控え、乾燥気味に管理し、5~10cm程度の若い葉を収穫する。葉柄の色のバラエティを生かして、幼苗期(5~7cm)のものはベビーサラダ用、おひたし、あえ物、油いためにもよい。老化した葉はアクが強く、繊維もかたくなり、品質が落ちる。高温、低温につよい。播き時5~8月 (サカタのタネ資料より)</p>
 <p>芽キャベツ</p>	<p>128穴のセルトレに2粒ずつまき、タネが隠れるほどの土をかぶせ、たっぷり水やりし育苗する。植えつけ1週間ほど前に、10㎡当り完熟堆肥約20kg野菜化成を約1kg施し、本葉が3~4枚になったころ、畦幅60~70cm、株間30~40cmに定植する。夏の高温には弱いので、敷きワラをして、乾燥を防ぐ。生育期間が長いので、定植30日ころから追肥用の肥料を200g程度3~4回施す。下の球が太り始めたら芯を止め、上4分の1の葉を残して葉を切り落とす。株元のわき芽や縮まりの悪い球も取り除いておき、よくふくらみ、しまりのよい球を下の方から順にかき取って収穫する。無加温ハウスやトンネルで収穫期間を延長出来る。アブラムシの寄生が多いので防除を徹底する。播き時5~6月</p>



## 農業豆知識

### 質問コーナー

果菜類の栄養状態はどのようにして見たらよいか教えてください。

#### 樹の栄養状態の判断

開花位置で判断：ナス

茎葉の形で判断：トマト



やや強い～健全な場合



栄養不良の場合  
(追肥を行い草勢をよくする)



←栄養適正  
茎の太さが1~1.2cm。葉はお皿を伏せた程度の曲がり具合。葉色が濃く、毛もよく伸び、みずみずしく感じる

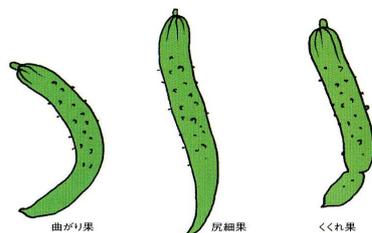
栄養過剰→  
葉が水牛の角のように内側に向かって、ぐるりと巻いていけば樹勢が強い証拠。葉面は凹凸ができ、葉はカールする



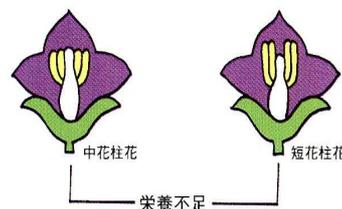
←栄養不足  
葉柄が細くて節間が間延びし、葉がバンザイするように上に向かってY字形になっている。葉色はあせ、葉が硬化し上巻

花の形で判断：ピーマン

キュウリの異常果



ナスの栄養診断



#### <草勢を弱らせずに維持するには>

#### ●トマト

摘果する(1、2段果房は3果、以降4果を基本)、3段開花期に窒素成分で3kg/10a、以降2段進むごとに同量の追肥を行なう。(液肥の場合はN成分で1kg)

#### ●ナス、ピーマン

1番果の収穫時に窒素成分で3kg/10a、その後は草勢をみながら10~14日間隔で追肥する。内側の枝や古い葉などは摘除する。果実が余り大きくないうちに収穫する。少量・多灌水で、敷きワラなどで土壌水分を一定に保つ。

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター  
地域生活係 櫻井普及員 (Tel 25-7156)